

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月23日 ～ 令和2年2月17日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12 (回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の状況に寄り添い、きめ細やかな課題分析に基づいた分かりやすい個別支援計画を作成することができる。	児発管以外の多職種の職員も書類作成に関わる会議に毎回参加し、意見交換をした上で個別支援計画を完成させている。	管理職だけでなく、個々の現場スタッフとも話し合いの機会を増やしていくこと。(既に今年度から全体ミーティングの頻度を上げています。)
2	公園遊びやショッピングモールへの外出活動や買い物体験を通じて、社会経験や地域交流ができる機会が多い。	悪天候の日以外はあるべく毎日外出の時間を作り、かつ地域の公園等で利用児童以外の遊具の譲り合いや空間の共有の機会を設けるようにしている。	徒歩で行ける距離の地域のスーパーやコンビニなど、より日常生活に近い店舗等への外出の機会も設けるようにする。
3	日々の自由時間に加えて、音楽療法や遠足などの集団活動を複合的に取り入れることによって、社会生活技能や人間関係を調整する力が身に付きやすい。	利用児童様どうしの遊びの調整、言葉遣い、譲り合いなど、集団生活や人付き合いの面でのルールやマナーを守って過ごすための声掛けを重視している。	スタッフミーティングや研修等を通してABA(応用行動分析)やSSTの考え方を取り入れ、専門的観点の学習の機会を増やしていくこと。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会など、保護者同士のコミュニケーションが取りやすくなる機会が少ない。	事業所を通した1対1の関わりを重視しているため。	今後も検討の機会を設ける。
2	地域住民の方を招待するイベントなど、現状よりもさらに踏み込んだ地域交流は機会が少ない。	近い距離で初対面の方と過ごす緊張してしまう方もおられ、一定の配慮をしているため。	今後も検討の機会を設ける。
3	ペアレントトレーニングや家族参加型のイベントなどの機会が少ない。	事業所を通した1対1の関わりを重視しているため。	今後も検討の機会を設ける。